令和７年度　小岩第二中学校　学校経営方針

昨年度、江戸川区教育委員会の英語教育推進モデル校として ALT が３名常駐しました。全ての授業に ALT がいるだけでなく、英語による朝の挨拶運動や昼休みの英会話教室、さらには、学校行事やホームルームにも参加していただき、常に英語が聞こえてくる学校となりました。また、スピーキングテストや英語検定の時には、ALT による補習を行い、スピーキングテストではＡランクの生徒が１４倍に、英語検定では３級、準２級、２級の２次試験合格率が９０％以上など、この１年間だけでその成果がはっきりと表れています。今年度も ALT３名体制は継続しますので、さらに英語に触れる機会を増やし「英語を恐れない生徒」「自ら英語で話しかけられる生徒」を育成し、「全ての生徒が英語で会話できる学校」を目指して参ります。また、昨年度、正式に姉妹校となったホノルルのエバマカイミドルスクールとの交流もさらに発展させ、国際理解教育の充実も図っていきます。

学校は一人一人の生徒が充実した生活を送る場であり、人間としての生き方を考え、他者とともに自己を形成する人間教育の場でもあります。令和７年度も英語教育を通して「生きる力」を育む学校をつくって参ります。

教育目標

○進んで学び協力し合う生徒の育成
○規律を守り責任を果たす生徒の育成
○健康で思いやりのある生徒の育成

目指す学校像

○生徒が、期待感をもって登校し、充実感をもって下校する学校
○生徒が、将来に対する夢や希望を育てる学校
○生徒が、社会人としての能力・態度を身に付けることができる学校

目指す校風

○ 生徒が自ら考えて行動できる学校
○ 校内で常に英語が聞こえる国際色豊かな学校
○ SDGsを推進しボランティア活動が活発に行われる学校

《学校経営計画》・・・教育目標達成のための具体的方策

1　英語教育の推進・・・ALT の活用

目標

（１）全ての生徒が英語で会話できる学校

（２）スピーキングテストの伸び率が江戸川区で№.１の学校

（３）英語検定の受験率が全校生徒の５０％以上

取り組みのポイント

（１）授業内外で様々な活用方法を取り入れる。

（２）ALT との交流を通して、生徒の国際理解を促す。

（３）生徒の英語を学ぶ意欲を引き出し、英語力を向上させ、コミュニケーションの力を伸ばす。

取り組みの内容

【授業外活動】

（１）校門でのあいさつ(Greeting at the school gate)

生徒が登校する時間（10 分程度）ALT に元気よくあいさつをする。

（２）休み時間（放課後）交流

生徒は必ず一日一回以上関わる　（基本的なやり取りの英語表現集を作成し生徒に配布）

Speaking mission card（JT が作成）を使って、ALT と会話をする。(週に一枚程度)

（ALT は生徒から Speaking card を受けとり、指定された袋（箱）に入れる）

（３）英会話クラブを設置する。(週数回　希望者を募る)

（４）ALT に清掃・帰りの会にクラスに入ってもらう。(交代で)

→当該クラスの生徒は必ず一回以上は ALT と会話する。

（５）昼の放送の活用。(英語委員会と放送委員会のコラボ)

・英語の歌の日を作る

・ALT にインタビューをする。(インタビュー内容を変えると何回もできる)

例①自己紹介　②食べ物紹介　　③観光地紹介など

（６）ALT に行事に参加してもらう。

・ホノルル交流　　・運動会（指示を日本語と英語で行う）　・学芸発表会（英語スピーチなど）

（７）定期的に英語発表会を持つ。

（８）総合の時間に、英語によるプレゼンを行う。

（９）ALT に学年レクを考え実行してもらう。

(10) 手紙（カード）/メールでのやりとり

ALT の質問（トピック）(ALT が作成）に対し、生徒が文を書き、添削して返却してもらう。

iPad を使って ALT に書いたものを送り、添削してもらう。

(11) 掲示物とその活用

English Corner を設置し、工夫のある掲示をしてもらう。

クイズコーナーの設置

ALT 発行の新聞の掲示（月に一回？）
ALT おすすめの外国の本の提示
国際理解に役立つ掲示
他

（12）英語発表大会(School English Presentation Competition)
学年でまたは希望者を募る
テーマを設定し、グループでプレゼンの準備
昼休み/放課後を使って準備をする
※ホノルルとの交流の一環として、ビデオメッセージの交換のためのプレゼンをする。
→案：授業で行い、代表グループをいくつか選出し、英語委員会のサポートでより良いものを仕上げてホノルルの中学生に見てもらう。
※ホノルルの中学生の興味・関心を知ることも必要

【授業での取り組み】
・ALT との demonstration
・ALT に performance test の内容作成を依頼する
例　ALT からのメッセージを読んで生徒が英語を話す/書く　など
・生徒が「言いたいけど言えない」ことを授業等（こう言いたい box を設置するのもよい）で吸い上げ、生徒全員でシェアするようにしたい。
→授業で取り上げる。「表現集」に入れる。

2　学習指導・・・学力向上

達成目標
（1）全国学力調査で各教科江戸川区平均を上回る。
（2）江戸川区学力調査で区内の平均を上回る。
具体的な取組
（1）「ドリルパーク」を活用した家庭学習習慣の定着。
（2）自習教室の開設。
（3）「受験講座」「放課後質問教室」「放課後補習教室」の実施。
（4）英検・数検・漢検の実施。
（5）夏季休業中の補習。
（6）「よむ YOMU ワークシート」を計画的に実施し、思考力・判断力・表現力を高める。
（7）学校図書館の環境を充実させ、各教科や探究学習での活用を推進する。

3　授業改善・・・「身を乗り出す授業」「意見の飛び交う授業」「探究型授業」

達成目標

（1）授業評価で「わかる授業」「やる気が出る授業」「授業規律」すべてが 90%以上。

授業改善のための基本ルール

（1）思考力・判断力・表現力を重視した授業の実践。

（2）対話を通してともに考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業の実践。

（3）粘り強く取り組む力を身に付けさせる授業の実践。

（4）自分の学びを振り返り次の学びに活かす力を育む授業の実践。

（5）「本時の目標」を板書して生徒が何を学ぶ時間なのかを明確にする。

（6）一問一答型授業とトークエンドチョークの授業の廃止。

（7）提出物は提出した回数ではなく内容で評価する。

（8）授業では対話活動を取り入れ主体的に学ぶ姿勢を構築する。

（9）単元の中で必ずグループで解決させる場面を設定する。

(10) タブレットを活用した授業を行う。

(11) 教科を横断したカリキュラムの実践。

(12) 授業規律、特に「チャイム始業」の徹底。

(13)「江戸川区学力調査」や「数学検定」を活用して生徒の学力を高める。

4　不登校支援・・個に応じた不登校支援

達成目標

・中学からの不登校生徒をゼロにする。

・引きこもりの不登校生徒をゼロにする。

具体的な取組

（1）ハイパーQU の理解を深めクラス経営に反映させる。

（2）エンカレッジルーム利用の拡充と学習支援の充実。（タブレット、授業プリント、授業配信）

（3）定期的な家庭訪問と担任による面談の実施。

（4）学校と繋がりにくい家庭とは校長面接を実施する。

（5）学校サポート教室などの外部機関を積極的に活用する。

（6）個別支援シートを作成し情報を共有する。

（7）スクールカウンセラーとの面談を積極的に働きかける。オンライン面談も実施する。

（8）L ゲート「毎日の記録」で生徒の心の変化を素早く察知し、不登校の未然防止に活かす。

5　生活指導・・・厳しさの中に優しさを秘めた指導。「あ・じ・み・こ・し」の徹底。

（1）挨拶の励行や言葉遣いの指導を徹底し、礼儀正しく明るい雰囲気をつくる。

（2）教職員相互の意思疎通を図り、組織的な指導体制で迅速な対応をする。

（3）問題行動への指導においては生徒の人格を尊重した指導を行い、生徒や保護者が納得できる信頼性の高い指導を実践する。

（4）「いじめ防止対策基本方針」に基づき「いじめは絶対に許さない」という基本姿勢や方針・指導を徹底する。
（5）規則や約束を守り、マナーとモラルと品位を身につけた生徒を育てる。
（6）部活動では「部活動ガイドライン」に則り「量より質」を重視した部活動を展開する。
（7）ボランティア活動を通し思いやりの心を育て社会に役立つ人間の礎を築く。
（8）4 月に「SNS 学校ルール」や「家庭ルール」策定しスマートフォンやタブレットの正しい使い方を徹底する。
（9）全教員が部活動の顧問となり生徒の健全育成につなげる。

6　進路指導・・・望ましい勤労観・職業観の育成と主体的な進路選択

（1）人とのふれあいや体験を通して、望ましい勤労観や職業観の育成を図るとともに、コミュニケーション能力や社会性を育成し、職業選択の基礎とする。
（2）3 年間を見通したキャリア教育を行い「生き方」指導の徹底を図る。
（3）職場体験を通して、勤労精神を醸成する。
（4）自己実現に向けて外部講師を招聘し、客観的に自分を見つめる機会をつくる。
（5）キャリアパスポートで自分の足跡を振り返らせ、自己実現を目指す力を醸成する。

7　道徳・・・心に響く道徳教育、自尊感情・自己有用感、規範意識の育成

（1）特別な教科「道徳」の研修を深め、道徳授業の指導内容や指導方法の工夫・改善を行う。
（2）様々な教育活動を通じた道徳教育を充実させ、思いやりや豊かな心の醸成と社会貢献による自己有用感を育成する。
（3）毎時間の授業で「考え・議論する」活動を行う。
（4）厳正な評価を行うために、評価材料の工夫や適切な評価基準の設定を行う。
（5）指導計画を見直し年間を見通した道徳の授業を行う。
（6）「いじめ」に関連した授業を年３回行う。

8　体力の向上・・・健康で活力ある生活を営むための資質や能力の育成

（1）体育的活動全般において、指導方法を工夫・改善し、各活動の資質向上を図る。
（2）スポーツ団体と連携し生徒の基礎体力づくりを推進する。
（3）「食育」「生活リズム向上」等を組織的に取り組み、健康な心身づくりを目指す。
（4）「すこやかタイム」及び「よつば」を通して健康教育・食育及び体力向上を推進する。
（5）昼休みに個人で使用できる遊具を用意し自由に使わせる。
（6）朝運動を始める。

9　特別支援教育・・・個に応じた教育と生徒が共に育つ教育

（１）「個別指導計画」「個別教育支援計画」を実践し、個に応じた支援を全校体制で取り組む。
（２）関係機関との連携を強化する。
（３）合理的配慮の必要な生徒に対してはできる限りの対応を学校全体で行う。
（４）特別支援委員会で生徒情報を共有し、組織的な支援を行う。
（５）特別支援学校と連携し副籍生徒との交流活動を通して障害者理解の充実を図る。
（６）ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりに各教科で取り組む。

10　人権教育・・・人権感覚と人権意識の育成

（１）差別や偏見のない環境づくりを全教職員で実行する。
（２）教師自ら言語環境を整え、生徒の人権を配慮した言葉遣いを使用する。
（３）教室等の掲示物においては、未提出者の扱いや人権に関わる表現等について十分に配慮したものを掲示する。
（４）人権研修を通して人権意識を高めるとともに人権感覚を磨く。
（５）LGBTQ について全教職員の理解のもと適切な支援を学校全体で行う。

11　オリパラレガシー２０２０教育の推進・・・感動を追い続ける学校

（１）東京都が掲げているオリパラ教育の「4 つのテーマ」（オリパラ精神・スポーツ・文化・環境）と「4 つのアクション」（知る・観る・する・支える）を組み合わせた取り組みを行う。
（２）「ボランティアマインド」については生徒の体験活動の中で年間を通して行う。

12　安全第一・・・「安全はすべてに優先する」安心・安全を提供する学校

（１）年間を通し、管理職と用務主事を中心に、全教職員で学校の施設・設備の状況確認を行う。
（２）「危機管理マニュアル」の読み合わせを年度当初に実施し、不審者の侵入や自然災害などの非常時対応の分担や職務の明確化を徹底する。
（３）避難訓練の質を高め災害に備える。

13　保護者や地域との連携・・・共に歩む、信頼される学校

（１）ＰＴＡ活動や地域行事に参加・協力し、保護者や地域との交流を図る。また、生徒による交流活動やボランティア活動を推進し生徒の健全育成を図る。
（２）ホームページや学校連絡メールを活用し学校の情報を積極的に発信する。
（３）小学校との連携教育を推進する。

14　服務の厳正・・・信頼される学校のために

（１）研修を通し教師としての資質を磨き自らが生徒の手本となる。
（２）教育公務員としての自覚を高め服務の厳正に努める。
・個人情報漏洩　・体罰　・わいせつ行為　・セクハラ　・会計事故　・交通事故　・信用失墜行為
・触法行為全般

15　働き方改革・・・生徒と向き合う時間の確保

（１）　タイムマネージメントの醸成。
（２）　職員室の環境整備。
（３）　部活動の複数顧問制。
（４）　定時退勤日の設定。
（５）　分掌の均等化。

16　その他

（１）ALT の常駐校として学校生活のあらゆる場面で英語を話す環境を整え、「全ての生徒が英語で会話できる学校」を目指す。
（２）ホノルルエバマカイミドルスクールとの交流を通して、国際感覚を養うとともに、将来グローバルに活躍できる人材を育成する。
（３）清掃活動を充実させ学校環境の保持・保全に努める心を養う